

# 伏見城跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 伏見城跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、複合店舗建設工事に伴う伏見城跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

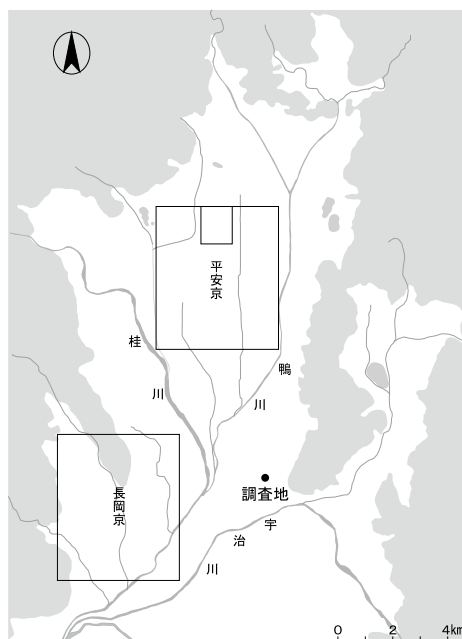
平成27年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |  |
|----------|--|
| 1 遺 跡 名  | 伏見城跡（文化財保護課番号 14F008）                          |
| 2 調査所在地  | 京都市伏見区下板橋町630番、630番1、630番3、630番6、630番7、630番8   |
| 3 委 託 者  | 月桂冠株式会社 代表取締役社長 大倉治彦                           |
| 4 調査期間   | 2014年10月15日～2014年11月20日                        |
| 5 調査面積   | 348㎡   |
| 6 調査担当者  | 布川豊治   |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「下鳥羽」・「丹波橋」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）                 |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                                 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。              |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                           |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                            |
| 13 本書作成  | 布川豊治<br>竜子正彦：自然遺物                              |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員および資料業務職員があたった。     |

(調査地点図)



# 目 次

|              |    |
|--------------|----|
| 1. 調査経過      | 1  |
| (1) 調査に至る経緯  | 1  |
| (2) 調査の経過    | 2  |
| 2. 位置と環境     | 3  |
| (1) 歴史的環境と立地 | 3  |
| (2) 周辺の調査    | 3  |
| 3. 遺 構       | 5  |
| (1) 遺構の概要    | 5  |
| (2) 基本層序     | 5  |
| (3) 第1面      | 5  |
| (4) 第2面      | 13 |
| 4. 遺 物       | 14 |
| (1) 遺物の概要    | 14 |
| (2) 土器類      | 14 |
| (3) 瓦類       | 15 |
| (4) 銭貨       | 16 |
| (5) 自然遺物     | 16 |
| 5. ま と め     | 19 |

# 図 版 目 次

|     |    |                 |
|-----|----|-----------------|
| 図版1 | 遺構 | 1 第1面全景（西から）    |
|     |    | 2 溝2、路面152（北から） |
|     |    | 3 溝3（西から）       |
| 図版2 | 遺構 | 1 溝3断面（西から）     |
|     |    | 2 溝88（北から）      |
|     |    | 3 布掘り柱穴列90（北から） |
| 図版3 | 遺構 | 1 第2面全景（西から）    |
|     |    | 2 柱穴列1（東から）     |
|     |    | 3 溝100（西から）     |
| 図版4 | 遺物 | 出土遺物            |

# 挿 図 目 次

|     |                                |    |
|-----|--------------------------------|----|
| 図1  | 調査地と周辺調査位置図（1：5,000）           | 1  |
| 図2  | 調査区配置図（1：1,500）                | 2  |
| 図3  | 調査前全景（西から）                     | 2  |
| 図4  | 作業風景（西から）                      | 2  |
| 図5  | 溝3北壁土層柱状図（1：20）                | 5  |
| 図6  | 第1面遺構平面図（1：150）                | 6  |
| 図7  | 第2面遺構平面図（1：150）                | 7  |
| 図8  | 調査区北壁断面図（1：50）                 | 8  |
| 図9  | 調査区西壁断面図（1：50）                 | 9  |
| 図10 | 溝1断面図（1：50）                    | 10 |
| 図11 | 溝2・149、路面152、布掘り柱穴列90断面図（1：50） | 10 |
| 図12 | 溝3断面図（1：50）                    | 11 |
| 図13 | 溝88断面図（1：50）                   | 11 |
| 図14 | 布掘り柱穴列90実測図（1：50）              | 12 |
| 図15 | 柱穴列1実測図（1：80）                  | 13 |
| 図16 | 溝100断面図（1：50）                  | 13 |
| 図17 | 出土遺物実測図（1：4）                   | 15 |
| 図18 | 銭貨拓影（1：1）                      | 16 |
| 図19 | 溝3最下層出土種実等写真                   | 18 |
| 図20 | 遺構概念図（1：300）                   | 20 |

# 表 目 次

|    |               |    |
|----|---------------|----|
| 表1 | 周辺調査一覧表       | 3  |
| 表2 | 遺構概要表         | 5  |
| 表3 | 遺物概要表         | 14 |
| 表4 | 銭貨一覧表         | 16 |
| 表5 | 溝3最下層出土種実等一覧表 | 17 |



# 伏見城跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査に至る経緯

調査地は京都市伏見区下板橋町に所在する。ここに複合店舗の新築が計画されたため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施したところ、敷地の南東部において伏見城期<sup>1)</sup>と考えられる整地層と溝を検出し、遺構が良好に残存することが確認されたため、発掘調査を行うこととなった。調査は文化財保護課の指導の下、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が担当した。

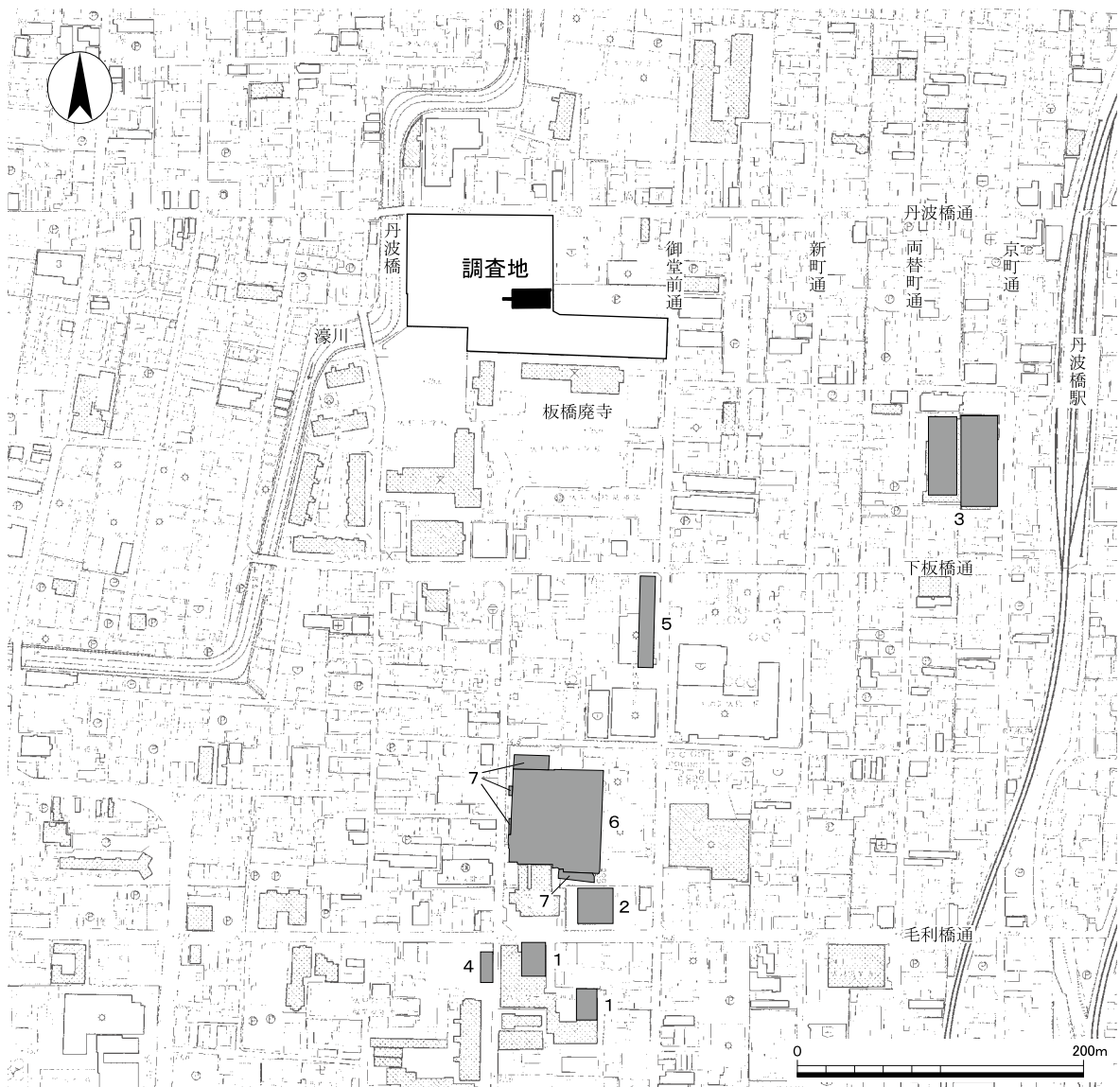


図1 調査地と周辺調査位置図（1：5,000）

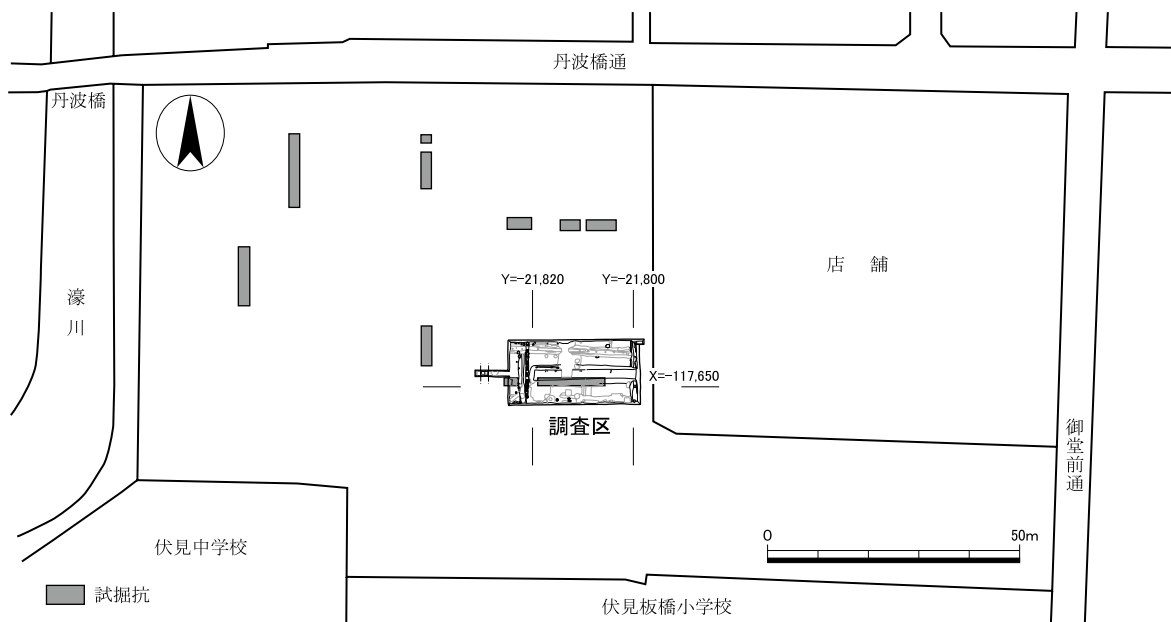


図2 調査区配置図 (1 : 1,500)



図3 調査前全景 (西から)



図4 作業風景 (西から)

## (2) 調査の経過

調査範囲は文化財保護課の指導により、調査地南東部に南北13m、東西26mの長方形、面積338㎡の調査区を設定し、伏見城期の遺構の検出を主な目的とした。

調査は2014年10月15日から開始した。上部の近現代層を重機掘削で除去した面を第1面(伏見城期)とした。続いて調査区全体に広がる整地層を重機で除去し、検出した地山面を第2面(伏見城期以前)として調査をした。第1面、第2面とも遺構掘削、写真撮影、図面作成を行った。さらに文化財保護課の許可を得て、路面の広がり確認するため調査区西側、南北溝の幅を確認するため調査区東側の一部をそれぞれ拡張して(計10㎡)調査を行った後、埋め戻し、機材搬出など全ての作業を11月20日に終了した。なお、調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。

註

- 1) ここでは、豊臣秀吉が伏見に隠居所を造営した天正20年(1592)から、伏見城が破却された元和9年(1623)までの期間(桃山時代から江戸時代初期)を伏見城期とする。

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境と立地

調査地は京都盆地南東部、鴨川に向かって穏やかに傾斜する桃山丘陵の西側斜面に位置する。当地は伏見城跡にあたり、南に板橋廃寺が近接する。板橋廃寺は採集された瓦から奈良時代前期に創建されたとされるが、これまで明確な遺構は検出されていない。伏見城は天正20年(1592)、豊臣秀吉が伏見に隠居所を造営したことに始まり、間もなく本格的な城郭に発展する。文禄5年(1596)慶長伏見大地震によって倒壊してしまうが、直ちに普請が開始され、慶長2年(1597)、木幡山に新城が完成する。その後、慶長3年(1598)豊臣秀吉が伏見城で死去し、徳川政権への移行の契機となる関ヶ原の戦い(1600年)の前哨戦によって落城するが、すぐに徳川家によって京都の拠点として再建される。しかし、新たな拠点として二条城が造営され、元和9年(1623)廃城破却された。調査地は伏見城の西側に広がる城下町の一画にあたる。濠川に架かる丹波橋の南東に隣接し、武家屋敷(桑山丹波守)に推定される。丹波橋及び調査地の北を東西に走る丹波橋通は当時の「丹波守」から名付けられたと思われる。その後、当地は江戸時代に入ると尾張藩の拝領地となる。

### (2) 周辺の調査(図1、表1)

調査地の周辺では、多くの調査が行われているが、主な調査地を図1に番号で示した。

調査1では平安時代の溝、桃山時代から江戸時代の土坑・柱穴・井戸などを検出した。出土遺物は平安時代、桃山時代から江戸時代の遺物が出土した。

調査2では平安時代前期の溝・土坑、桃山時代から江戸時代の土坑・柱穴・建物・柵・井戸などを検出した。出土遺物は平安時代前期、桃山時代から江戸時代の遺物が出土した。

調査3では桃山時代から江戸時代の旧京町通路面・溝・土坑・礎石(建物)・井戸・水琴窟など

表1 周辺調査一覧表

| 調査番号 | 調査年       | 文 献  |
|------|-----------|--|
| 1    | 1985      | 上村憲章「伏見城1」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年       |
| 2    | 1986      | 平田 泰「伏見城々下町」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年     |
| 3    | 1988      | 小森俊寛「伏見城跡2」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年      |
| 4    | 2004      | 「伏見城跡発掘調査終了報告書」 古代文化調査会                                    |
| 5    | 2005      | 平尾政幸『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-18 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年  |
| 6    | 2005～2006 | 山本雅和 『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-27 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年 |
| 7    | 2007～2008 | 山本雅和 『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-15 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年 |

を検出した。出土遺物は古墳時代、奈良時代から平安時代、桃山時代から江戸時代遺物が出土した。

調査4では室町時代の溝、桃山時代から江戸時代の柱穴・土坑・井戸・堀・庭園などを検出した。出土遺物は平安時代、桃山時代から江戸時代の遺物が出土した。

調査5では奈良時代の竪穴建物・土坑、桃山時代から江戸時代の小穴・土坑・井戸・柵・炉跡などを検出した。出土遺物は奈良時代、桃山時代から江戸時代の遺物が出土した。

調査6では室町時代後期の溝・土坑・井戸、桃山時代の土坑・井戸・竈、江戸時代の墓地・溝・土坑・井戸・竈などを検出した。出土遺物は古墳時代後期から室町時代後期、桃山時代、江戸時代の遺物が出土した。

調査7では室町時代の溝・土坑、桃山時代の溝・土坑・土間・地形の段差など、江戸時代の溝・土坑・井戸・柱穴・石列・土間などを検出した。出土遺物は古墳時代後期から奈良時代、室町時代、桃山時代、江戸時代の遺物が出土した。

周辺の調査では、奈良時代から平安時代の遺構と多くの桃山時代から江戸時代の遺構を検出している。

#### 参考文献

『京都の地名』 平凡社 1987年

『京都市遺跡地図』 第8版 京都市文化市民局 2007年

「豊公伏見城ノ圖」『伏見町誌』 伏見町役場 1929年（1974年復刻）

### 3. 遺 構

#### (1) 遺構の概要

調査では2面の遺構面を調査した。第1面では整地層・路面・溝・布掘り柱穴列・柱穴・土坑などを検出した。第2面では、溝・柱穴列・柱穴・土坑などを検出した。遺構数は154基を数える。検出した主な遺構について第1面と第2面に分けて述べる。

#### (2) 基本層序 (図8・9)

調査区の現地表面の標高は15.4～15.6mである。地表から現代盛土が厚さ0.4～0.7mある。その下は江戸時代の耕作土と思われる層が厚さ0.1～0.3mある。この下を第1面とした。この面は、調査区全体に広がる整地層によってなっており、西側の整地層と東側の整地層は異なる。北壁では厚さが約0.25mある。整地層の下は地山面となり、第2面とした。北壁で地山上面の標高は14.4m前後ある。なお、地山上面より0.7m前後下層、標高13.65～13.8mに始良Tnなどの火山灰が混じる堆積層を検出した(図5)。

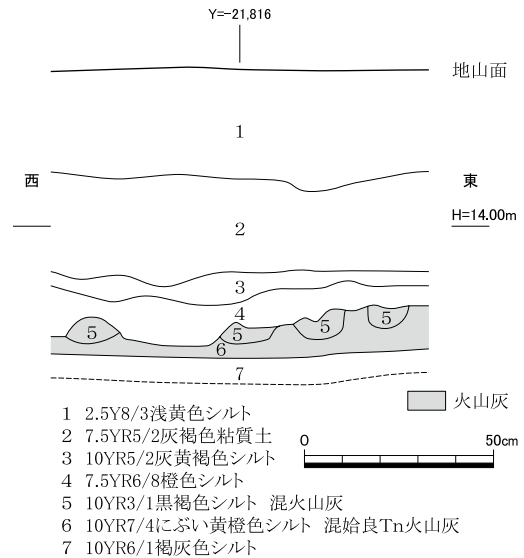


図5 溝3北壁土層柱状図(1:20)

この下を第1面とした。この面は、調査区全体に広がる整地層によってなっており、西側の整地層と東側の整地層は異なる。北壁では厚さが約0.25mある。整地層の下は地山面となり、第2面とした。北壁で地山上面の標高は14.4m前後ある。なお、地山上面より0.7m前後下層、標高13.65～13.8mに始良Tnなどの火山灰が混じる堆積層を検出した(図5)。

#### (3) 第1面 (図6、図版1-1)

江戸時代後期の溝、伏見城期の整地層・布掘り柱穴列・柱穴・土坑などを検出した。整地層は調査区全体に広がり、溝3を境に調査区西部、南部、北部で様相が異なり、それぞれを路面152、整地層153・154とした。

溝1(図10) 調査区北部で検出した東西溝である。幅約2m、深さ0.5～0.75mを測る。検出長は約25mあり、調査区外の東西に延びる。この溝は、江戸時代の層を掘り込んでおり、出土遺物か

表2 遺構概要表

| 時 代                   | 遺 構                                   |
|-----------------------|---------------------------------------|
| 平安時代                  | 柱穴列1、溝100                             |
| 鎌倉時代～室町時代             | 柱穴、土坑                                 |
| 伏見城期<br>(桃山時代～江戸時代初期) | 溝2・3・88・149、布掘り柱穴列90、路面152、整地層153・154 |
| 江戸時代前期以降              | 溝1                                    |

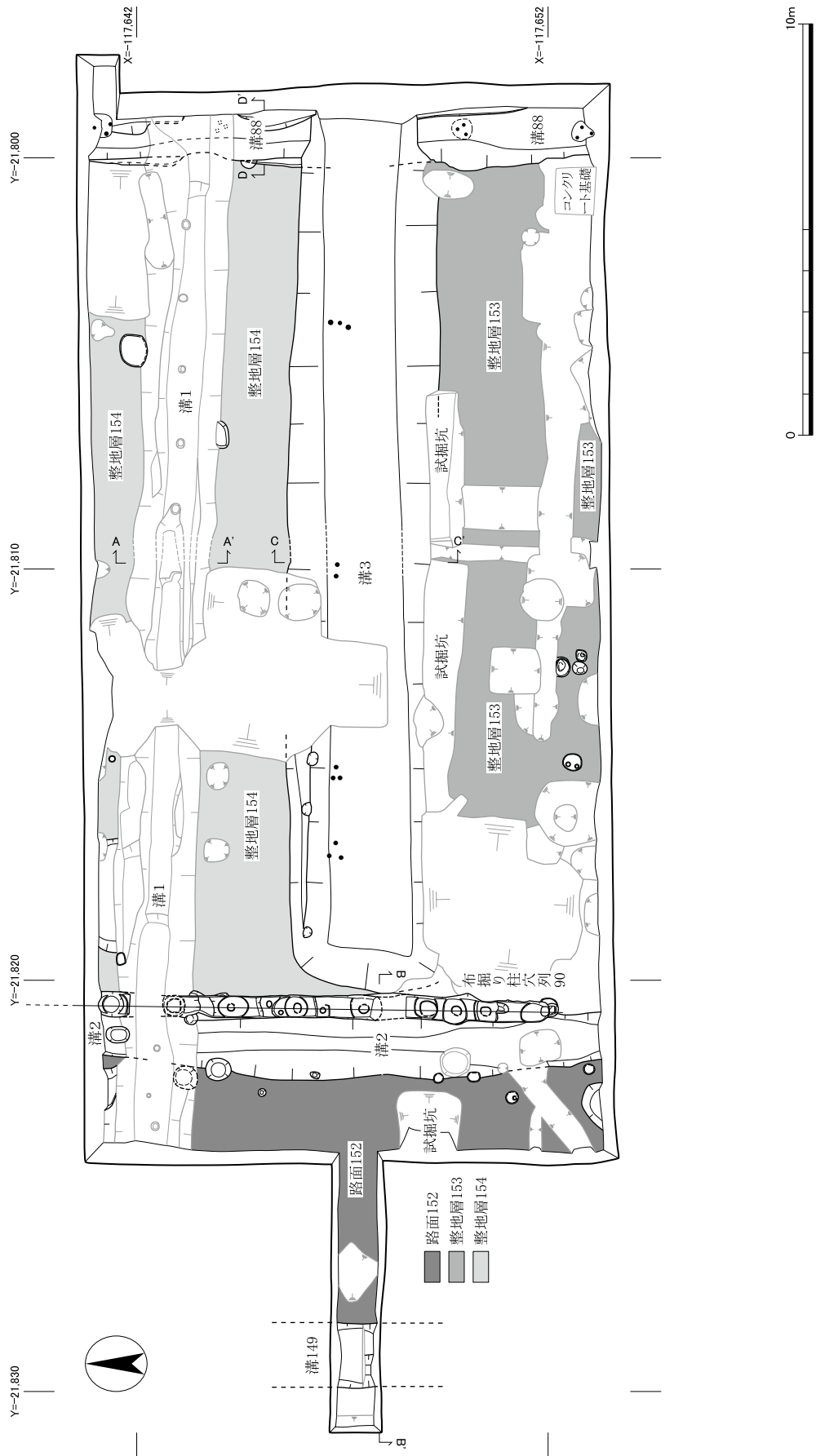


図6 第1面遺構平面図 (1 : 150)



図7 第2面遺構平面図 (1 : 150)

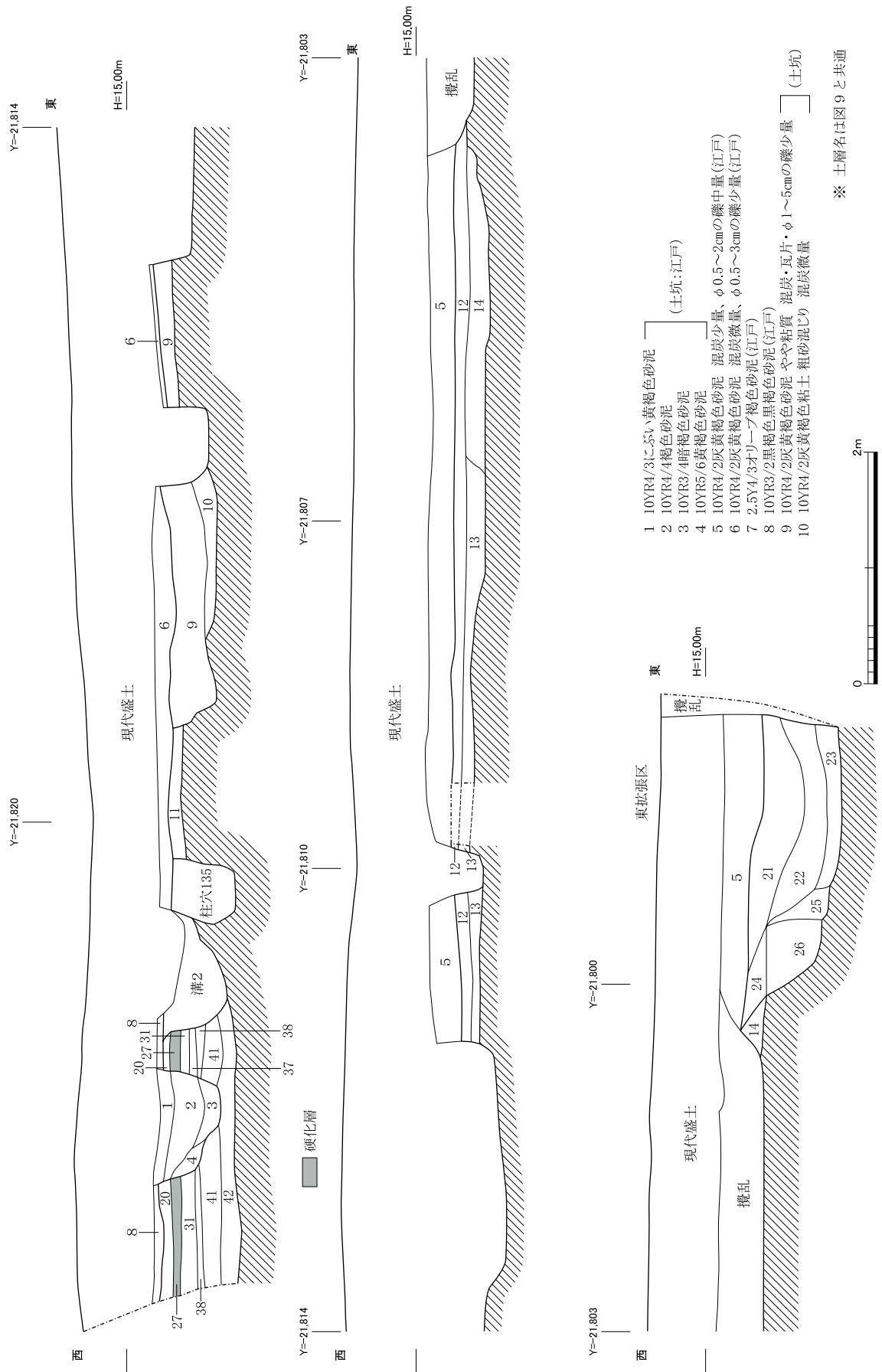
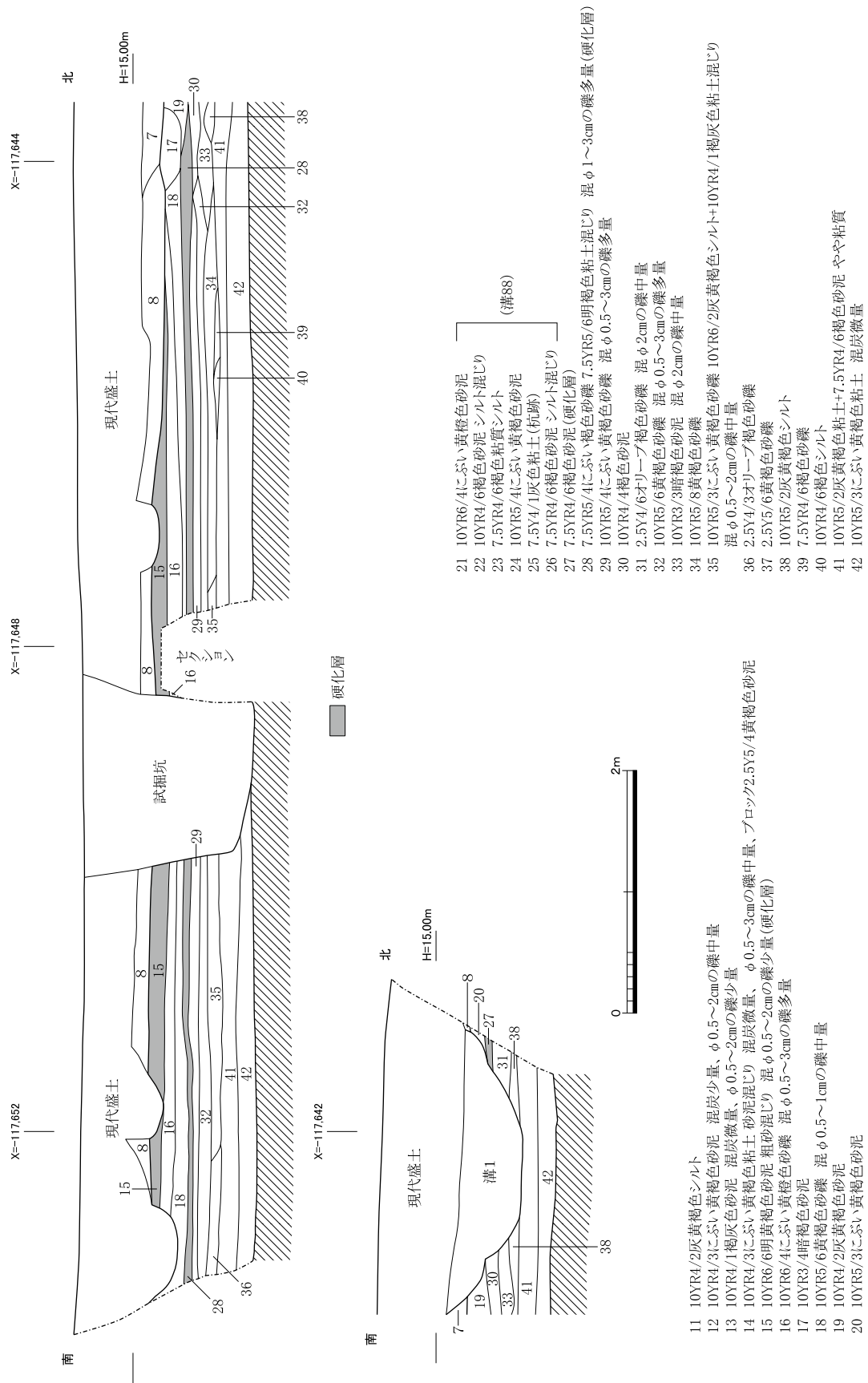


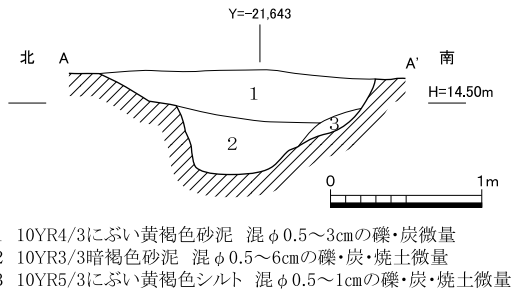
図8 調査区北壁断面図 (1 : 50)





※ 土層名は図8と共通

図9 調査区西壁断面図 (1:50)



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 混φ0.5~3cmの礫・炭微量
- 2 10YR3/3暗褐色砂泥 混φ0.5~6cmの礫・炭・焼土微量
- 3 10YR5/3にぶい黄褐色シルト 混φ0.5~1cmの礫・炭・焼土微量

図10 溝1断面図 (1:50)

ら江戸時代後期である。

**溝2** (図11、図版1-2) 調査区西部で検出した南北溝である。幅1~1.5m、深さ0.5m前後を測る。検出長は約13mであり、調査区外の南北に延びる。埋土は上層と下層に分けられ、上層には礫が混じり、下層は粘質層である。時期は新旧があると考えられるが、伏見城期に収まる。後述する路面152の東側溝にあたる。

**溝149** (図11) 西拡張区で検出した南北溝である。幅約1.5m、深さ約0.7mを測る。検出長は約1mであり、調査区外の南北に延びる。埋土は上層と下層に分けられ、上層は砂泥、下層は粘質層である。時期は新旧があると考えられるが、伏見城期に収まる。後述する路面152の西側溝にあたる。

**路面152** (図11、図版1-2) 調査区西部で検出した道路の路面及び整地層と考える遺構である。検出長は南北13mであり、調査区外の南北に延びる。路面152の東西両側で溝2と溝149を検出した。溝2東端と溝149西端間の距離は約9mである。路面の幅は6m前後、厚さは0.9m前後を測る。埋土は礫主体層と粘土やシルトの混じる層が互層の版築状となり、10層前後重なる。上面と途中層には硬化層があり、2時期の路面と考えられる。溝2と溝149も2時期あり、この路面152と両側溝は、それぞれの道路遺構と考えられる。時期は伏見城期である。

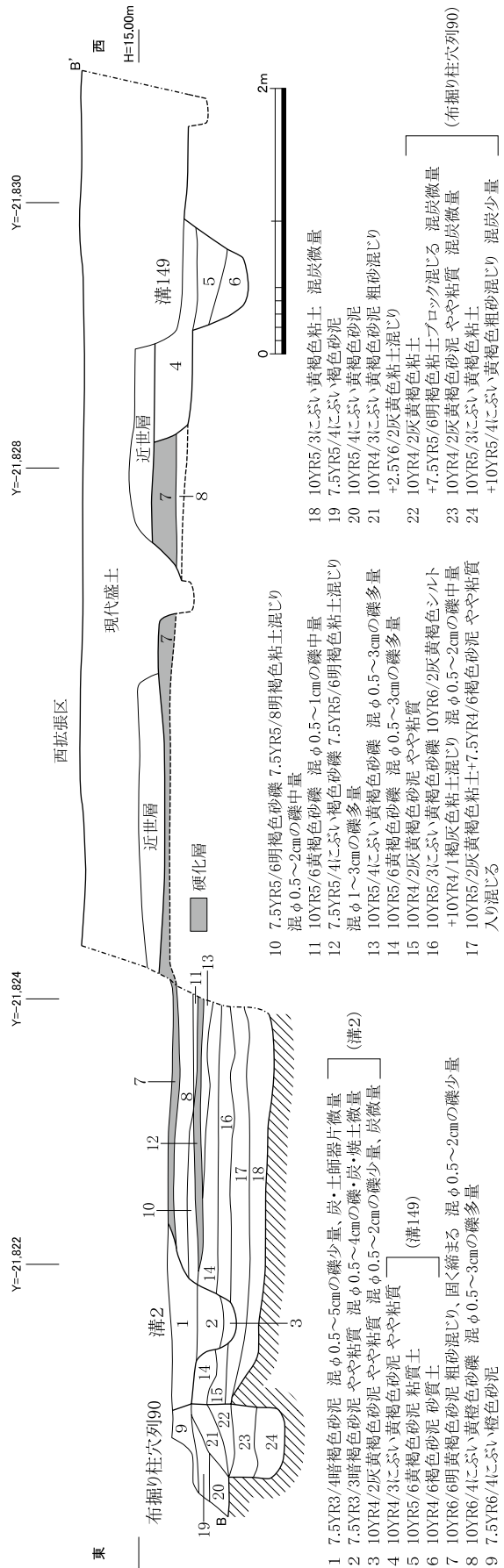


図11 溝2・149、路面152、布振り柱穴列90 断面図 (1:50)

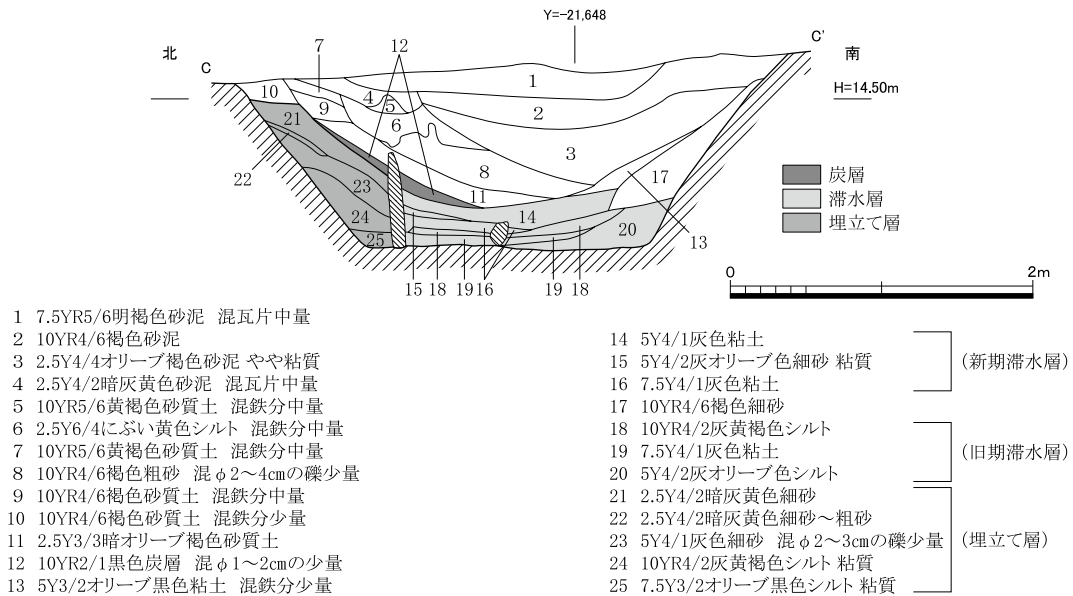


図12 溝3断面図 (1:50)

**整地層 153** 調査区南部で検出した。西は攪乱によって削平される。南北約4m、東西約16mの範囲を確認したが、さらに調査区外の東と南に広がる。厚さは約0.6mを測る。埋土は礫主体の層と白色粘土が混じる砂泥層が互層となり、5層前後重なる。時期は伏見城期と考えられる。

**整地層 154** 調査区北部で検出した。南北約5m、東西約20mの範囲を確認したが、調査区外の東と北に広がる。厚さは0.3m前後を測る。埋土は礫主体の褐色系砂泥が2層重なる。時期は伏見城期と考えられる。整地層153・154は、伏見城城下町を整備した際の整地層である。

**溝3** (図12、図版1-3・2-1) 調査区中央部で検出した東西溝である。西は布掘り柱穴列手前で止まる。検出長は約22mであり、調査区外の東に延びる。幅3.5m前後、深さは1.2m前後を測る。北岸の底面には直径9cm前後の松材を使った2~3本1組の杭跡を4組検出した。これらの杭は北岸肩部から南へ1.2m前後離れた所に打たれており、東西に列をなす。その間隔は西から、約2.1m・5.1m・6mである。溝の断面形は逆台形状であり、埋土は瓦や鉄分を多く含む褐色系土と炭層の上層(図12-1~13)、灰色系の砂・シルト・粘質土の下層(図12-14~16・18~20)、杭列と北岸の間との灰黄色系の砂・シルト層(図12-21~25)に分層できる。上層は溝を埋めた埋土、下層は水があった滞水層、杭列と北岸の間との層はこの部分に土を入れ、埋め立てた層と考えられる。また、この溝は後述する滞水層の自然遺物分析から水が滞留し淀んでいたと考えられる。この溝は、北岸に船が接岸できる係留施設がある堀と考えられる。時期は伏見城期と考えられる。

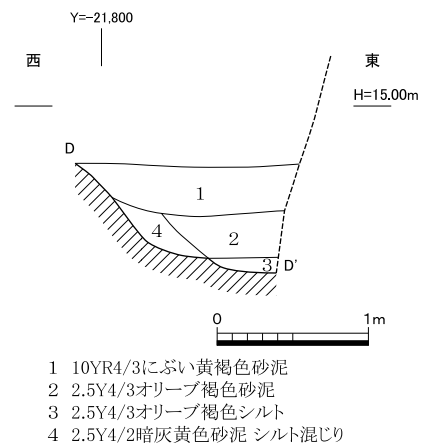


図13 溝88断面図 (1:50)

**溝88** (図8・13、図版2-2) 調査区東部端で検出した南北溝である。検出長は13mであり、調査区外の南北に延びる。幅2.5m以上、深さは0.7m前後を測る。西岸の底面には

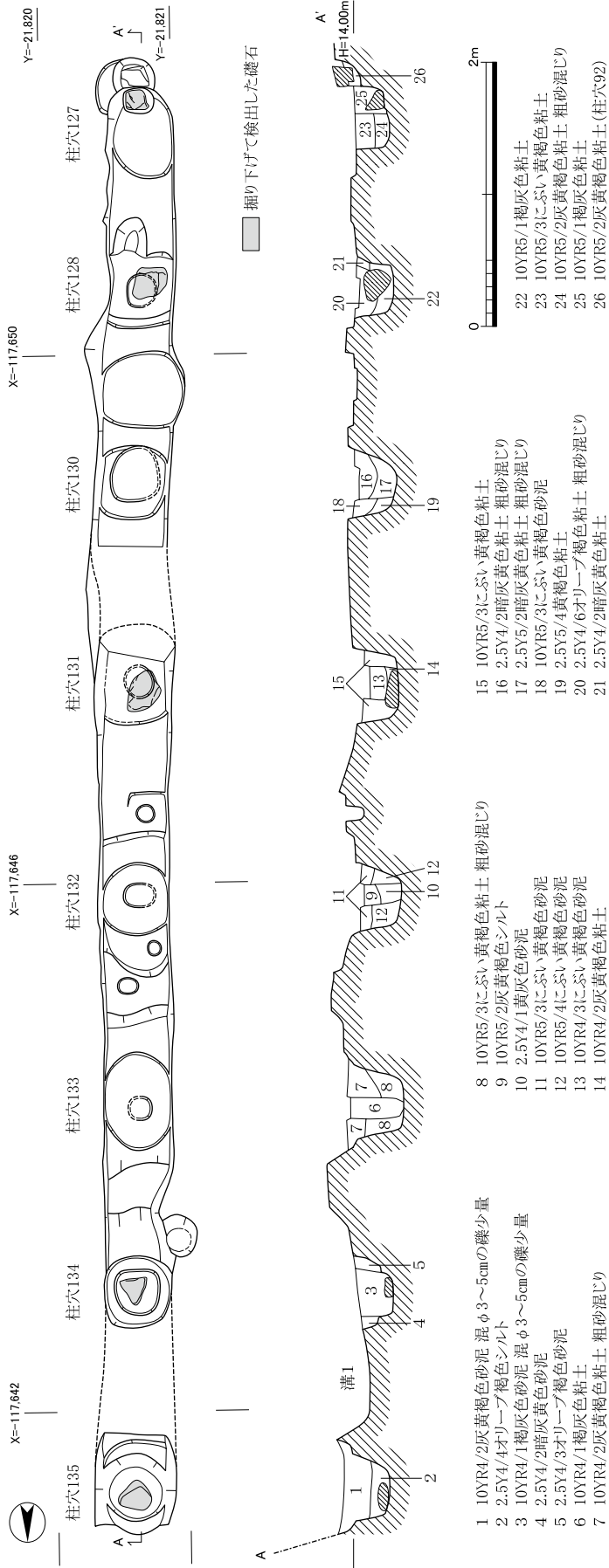


図14 布掘り柱穴列90実測図 (1:50)

直径8~9cmの松材を使った3本1組の杭跡を4組検出した。これらの杭は西岸肩部から東へ0.9m前後離れた所に打たれており、南北に列をなす。その間隔は北から、約2.8m・6m・2.8mである。埋土は溝を埋めた黄褐~褐色砂泥層(図8-21・22、図13-1・2)、褐色系シルトの滞水層(図8-23、図13-3)、杭列と北岸との間に土を入れ、埋立てた砂泥・シルト混じり砂泥層(図8-24~26、図13-4)に分層できる。溝88は水があり、西岸に船が接岸できる係留施設がある堀と考えられる。時期は伏見城期と考えられるが、先述の溝3に先行する遺構である。

布掘り柱穴列90(図11・14、図版2-3) 調査区西部で路面152の整地下部から検出した。細長い帯状の南北掘り込みに柱穴が並ぶ布掘り柱穴列である。布掘りの幅は0.5m前後、検出長約11mあり、北は調査区外に延びる。主軸の方向は北から西へ約0.8度振る。柱穴は8基あり、礎石を伴う5基と柱痕跡を検出した3基が並ぶ。その並びは北から、礎石・礎石・柱痕跡・柱痕跡・礎石・柱痕跡・礎石・礎石である。柱間は北から、1.6m・1.4m・1.6m・1.6m・1.6m・1.4m・1.4mである。柱穴92(図14-26)は柱穴127に切られるが、布掘り柱穴列に関連する柱穴の可能性はある。柱穴の掘形は布掘りのため東西辺が直線的である。径0.6~0.8m、深さ0.3~0.5mを測る。礎石は径

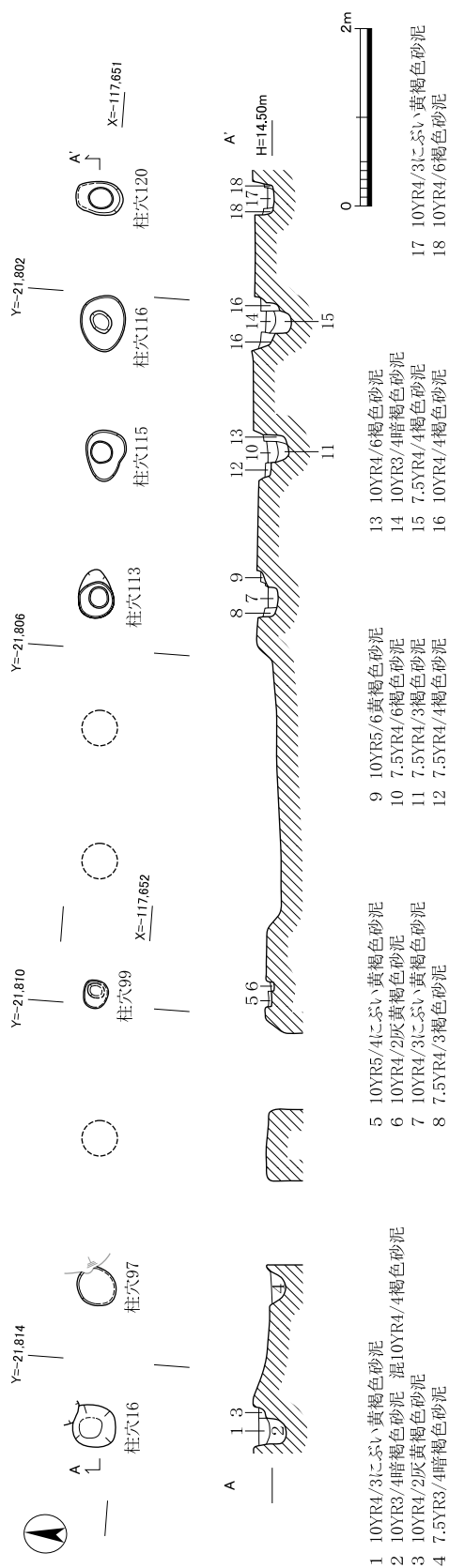


図15 柱穴列1実測図 (1:80)

0.2~0.4m、厚さ0.1~0.2mを測る。柱痕跡は径0.15~0.3m、深さ0.3~0.4mである。布掘り柱穴列90(図11-22~24)は、道路遺構(路面152)の旧期路面を掘り込んでいる。その上にも旧期路面の整地層に対応する布掘りの埋土(図11-19~21)がある。さらに新期道路の整地層に対応する1層(図11-9)が重なる。布掘り柱穴列90は塀などの基礎と考えられ、伏見城期の旧期道路と同時期に塀が作られ、新期に道路が再整備された時に塀も再整備されたと考えられる。

(4) 第2面(図7、図版3-1)

溝、柱穴列、柱穴、土坑などを検出した。時期は平安時代から伏見城期までの遺構である。

柱穴列1(図15、図版3-2) 調査区南西部で検出した7基の東西柱穴列である。柱穴の主軸方向は西から南へ約43度振れる。柱間は西から1.5m・推定1.6m・推定1.6m・推定1.5m・推定1.5m・推定1.5m・1.6m・1.5m・1.5mである。柱穴の掘形は楕円形や卵形状であり、径0.4~0.6m、深さは0.2~0.4mを測る。柱痕跡は円や楕円形状で、径0.2~0.4m、深さは0.1~0.3mを測る。埋土は褐色系の砂泥である。この柱穴列1は柵と考えられる。時期は出土遺物から平安時代前期である。

溝100(図16、図版3-3) 調査区南部で検出した東西溝である。西は路面152に削平され、東は調査区東部の中程で止まる。検出長は約14.5m、幅0.6~1.3m、深さは0.15~0.4mを測る。底部は凹凸があり、幅は一定ではない。時期は出土遺物から平安時代前期に埋没したと考えられる。

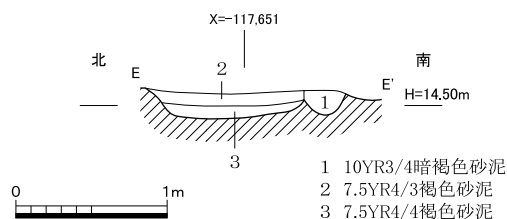


図16 溝100断面図 (1:50)

## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要

遺物は整理用コンテナで35箱出土した。瓦類が最も多く出土し、次に土器類が多い。他に少量の金属製品、木製品が出土した。金属製品は銭貨が大半である。

遺物の時期は、古墳時代以前から江戸時代に及ぶ。江戸時代の遺物が大半であり、土師器皿・焙烙、施釉陶器椀・皿・鍋、染付磁器椀・皿、磁器椀・皿、平瓦、丸瓦、棧瓦がある。

次いで多いのが伏見城期（桃山時代から江戸時代初期）の遺物であり、土師器皿・塩壺、焼締陶器播鉢・甕、施釉陶器唐津椀皿類、丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦がある。

奈良時代から平安時代の遺物は少量であり、土師器杯皿類、須恵器杯・甕、緑釉陶器椀皿類、平瓦、丸瓦、軒平瓦がある。鎌倉時代から室町時代の遺物は、瓦器鍋、輸入青磁椀皿類などが数点出土した。古墳時代以前は土師器と思われるものが1点であり、小片で磨滅している。

これら遺物の中で、主な遺構から出土した遺物を中心に図示した。なお、出土土器の時期については、「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」に準拠した。

### (2) 土器類（図17、図版4）

土器類は大半が小片のため図示できるものは少数に留まる。

1は溝100から出土した土師器皿である。口径15.8cm、器高は3.5cmである。体部は底部から外反して立ち上がり、口縁部はつまんで端部は丸くなる。時期は京都I期中段階に比定でき平安時代前期である。2は柱穴列1の柱穴16から出土した須恵器杯である。口径16.7cm、器高は4.2cmである。

表3 遺物概要表

| 時 代                       | 内 容                | コンテナ<br>箱数 | Aランク点数                    | Bランク<br>箱数 | Cランク<br>箱数 |
|---------------------------|--------------------|------------|---------------------------|------------|------------|
| 古墳時代以前                    | 土師器                |            |                           |            |            |
| 奈良時代後期<br>～平安時代前期         | 土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦     |            | 土師器1点、須恵器1点、軒平瓦1点         |            |            |
| 鎌倉時代<br>～室町時代             | 瓦器、輸入陶磁器、銭貨        |            | 銭貨14点                     |            |            |
| 伏見城期<br>(桃山時代～<br>江戸時代初期) | 土師器、焼締陶器、施釉陶器、瓦    |            | 土師器4点、焼締陶器1点、垂木先瓦1点、軒平瓦1点 |            |            |
| 江戸時代前期<br>以降              | 土師器、施釉陶器、染付磁器、磁器、瓦 |            |                           |            |            |
| 合 計                       |                    | 37箱        | 24点（2箱）                   | 0箱         | 35箱        |

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。



底部には貼付高台がつき、体部は底部から直線的に立ち上がる。口縁部は丸く収める。時期は京都I期中段階に比定でき平安時代前期である。3は布掘り柱穴列90の柱穴135から出土した土師器皿である。口径10.8cm、器高は2.35cmである。内面底部周縁は凹状になる。体部は底部から開き気味に立ち上がり、口縁部はつまみ上げる。口縁端部には油煙痕と思われるものが付着する。時期は京都X期新段階～XI期古段階に比定でき伏見城期に収まる。4は溝3下層から出土した土師器皿である。口径11cm、器高は1.9cmである。体部は底部から開き気味に立ち上がり、口縁部はつまみ上げる。口縁端部には油煙痕と思われるものが付着する。時期は京都XI期古～中段階に比定でき伏見城期に収まる。5は溝3下層から出土した焼締陶器の播鉢である。底部と体部内面に播目がある。体部内面の播目は間隔を置き、1.4cm前後の幅内に5条の条線がある。底部内面の播目は、不規則に施し、幅1.4cm前後、1単位5条である。6は溝3下層から出土した塩壺身である。底部は平たく、体部内面には輪積み痕ある。体部は外上方へ立ち上がり、口縁部はつまみ上げる。時期は伏見城期と考えられる。7は溝3上層から出土した塩壺蓋である。天井部は中心がくぼみ、体部は外反し、口縁部は下方へつまみ、丸く収まる。時期は伏見城期と考えられる。

### (3) 瓦類 (図17、図版4)

瓦類は多量に出土し、大半が溝3上層から出土した。

8は盛土から出土した唐草軒平瓦である。瓦当面右半上部が残る。平瓦部凹面は布目、珠文が外区界線に重なる。池田瓦窯に同文瓦<sup>2)</sup>がある。時期は平安時代中期である。

9・10は溝3上層から出土した。9は菊花文垂木先瓦と思われる。10弁ある。10は唐草均整瓦である。中心飾りは宝珠か。9・10の時期は伏見城期と考えられる。

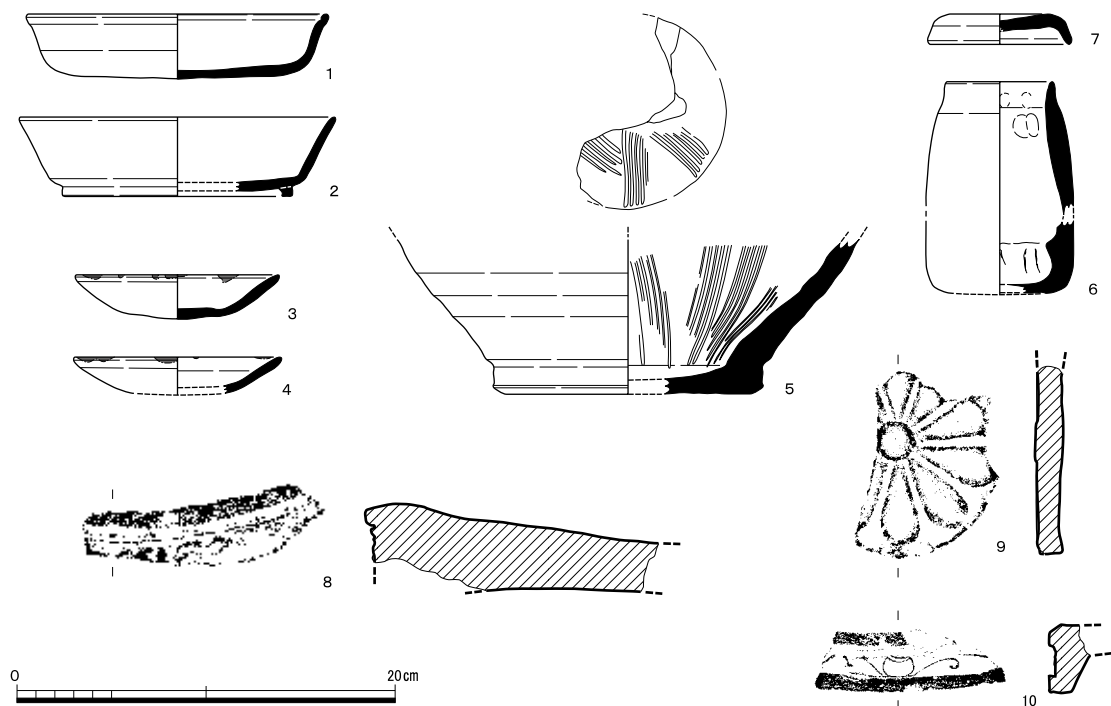


図17 出土遺物実測図 (1 : 4)

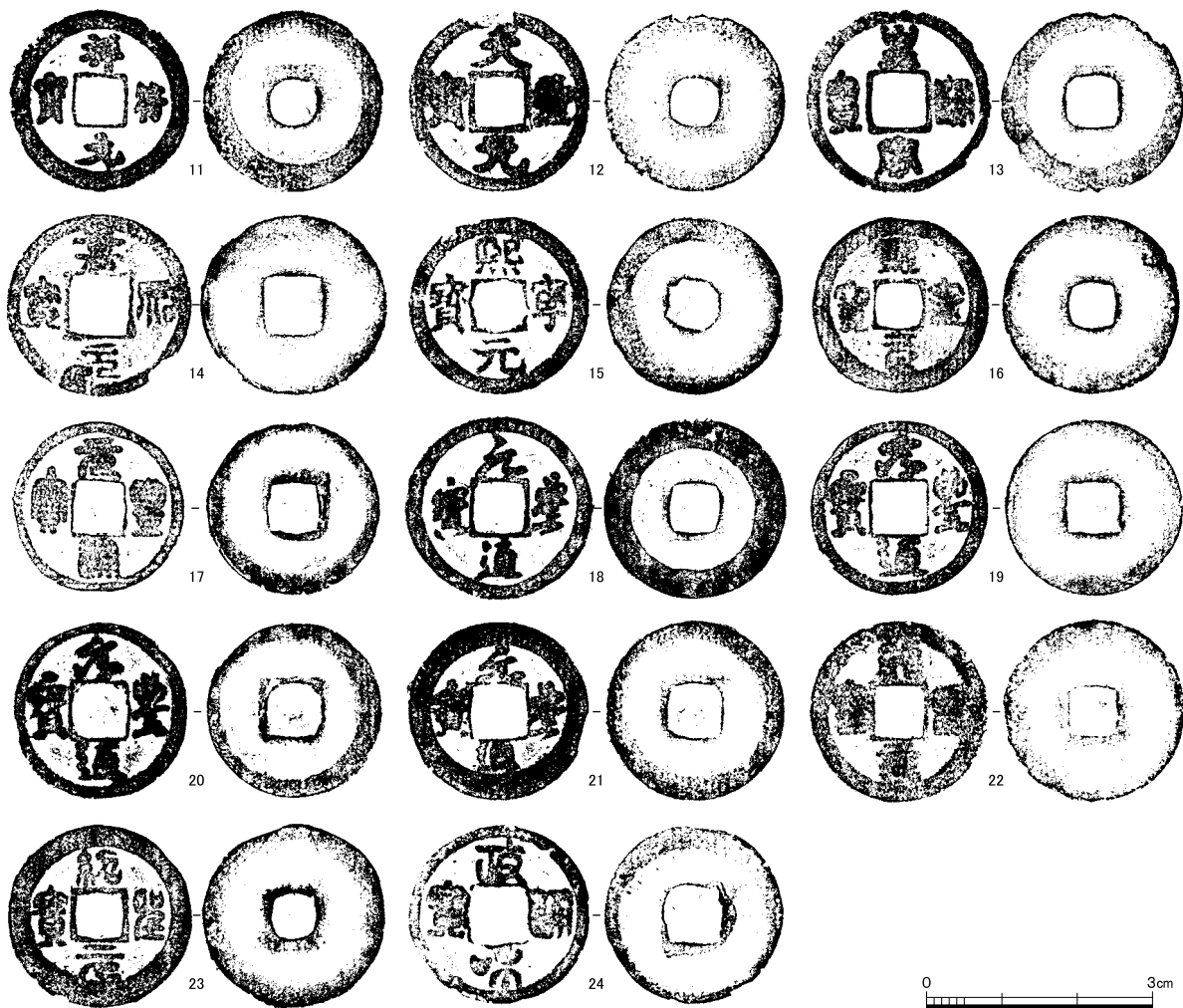


図18 銭貨拓影（1：1）

(4) 銭貨（図18、図版4、表4）

図示した14点すべてが整地層154上面から出土した。図示したものの他に鉄銭と思われるものが1点あるが、錆で不明瞭である。

元豊通寶が5点（17～21）と最も多い。中世以来の渡来銭が伏見城期にも使用され、廃棄されたものであろう。

(5) 自然遺物（図19、表5）

種実等の同定 土サンプルは、溝3最下層（図12の19・20層）から2200ml採取し、4mm・2mm・1mmの篩と60メッシュのシルクスクリーンで選別後、実体顕微鏡で同定した。

木本には可食できるクワ属・サンショウがあり、草本では可食されるメロンの仲間（長さの平均

表4 銭貨一覧表

| 遺物番号 | 銭／種類 | 書体 | 重さg   | 初鑄年  |
|------|------|----|-------|------|
| 11   | 祥符元寶 |    | 3.159 | 1008 |
| 12   | 天聖元寶 | 真書 | 2.711 | 1023 |
| 13   | 皇宗通寶 | 篆書 | 3.055 | 1039 |
| 14   | 嘉祐元寶 | 篆書 | 2.785 | 1056 |
| 15   | 熙寧元寶 | 真書 | 3.738 | 1068 |
| 16   | 熙寧元寶 | 篆書 | 2.308 | 1068 |
| 17   | 元豊通寶 | 篆書 | 2.006 | 1078 |
| 18   | 元豊通寶 | 真書 | 2.668 | 1078 |
| 19   | 元豊通寶 | 真書 | 2.545 | 1078 |
| 20   | 元豊通寶 | 真書 | 2.056 | 1078 |
| 21   | 元豊通寶 | 真書 | 1.879 | 1078 |
| 22   | 紹聖元寶 | 篆書 | 3.895 | 1094 |
| 23   | 紹聖元寶 | 篆書 | 2.651 | 1094 |
| 24   | 政和通寶 | 篆書 | 2.250 | 1111 |

※出土遺構はすべて整地層154上面



が6.95mmでマクワウリ等) 以外に水辺等に生育するヤナギタデ・ボントクタデ等のタデ類、シロネ属や湿地・水田等に生育するタガラシ・タカサブロウ・カヤツリグサ属・ホタルイ属があり、その他ママコノシリヌグイ等のタデ類・スベリヒユ・ナデシコ科・アカザ属・ヒユ属・カタバミ属・エノキグサ・スマレ科・ホトケノザ・シソ属・オオバコ・イネ科などの道端・畑のように踏みつけられたり土壌が改変される場所に生育するものがある。特に日陰に生育するドクダミが多く見られた。

その他ではミジンコの耐久卵が見られ、溝内の水質の悪化あるいは乾燥化を示している。

表5 溝3最下層出土種実等一覧表

| 種類 | 番号  | 和名           | 部位   | 科名        | 生育場所          | 個数 |    |
|----|-----|--------------|------|-----------|---------------|----|----|
| 木本 | 1   | クワ属          | 果実   | クワ        | 山地・庭木・栽培      | 1  |    |
|    | 2   | サンショウ        | 核    | ミカン       | 山野            | 1  |    |
| 草本 | 3   | ギシギシ属        | 果実   | タデ        | 田畑の畔や道端の湿地・水辺 | 4  |    |
|    | 4   | ギシギシ属        | 花被   | タデ        | 田畑の畔や道端の湿地・水辺 | 3  |    |
|    | 5   | ママコノシリヌグイ    | 果実   | タデ        | 道端・野原         | 1  |    |
|    | 6   | イヌタデ         | 果実   | タデ        | 道端・野原         | 4  |    |
|    | 7   | ヤナギタデ        | 果実   | タデ        | 水辺・湿地         | 1  |    |
|    | 8   | ボントクタデ       | 果実   | タデ        | 水辺・湿地         | 2  |    |
|    | 9   | タデ科(三稜形)     | 果実   | タデ        | 水辺・湿地・道端      | 1  |    |
|    | 10  | スベリヒユ        | 種子   | スベリヒユ     | 畑・道端          | 1  |    |
|    | 11  | ノミノツヅリ       | 種子   | ナデシコ      | 道端・畑・水田       | 2  |    |
|    | 12  | ノミノフスマ       | 種子   | ナデシコ      | 水田・畑・野原       | 22 |    |
|    | 13  | ハコベ属         | 種子   | ナデシコ      | 道端・畑          | 11 |    |
|    | 14  | アカザ属         | 種子   | アカザ       | 道端・荒地         | 2  |    |
|    | 15  | ヒユ属          | 種子   | ヒユ        | 畑・道端          | 22 |    |
|    | 16  | タガラシ         | 果実   | キンボウゲ     | 水田            | 8  |    |
|    | 17  | キンボウゲ属       | 果実   | キンボウゲ     | 山野・道端         | 4  |    |
|    | 18  | ドクダミ         | 種子   | ドクダミ      | 平地の日陰         | 96 |    |
|    | 19  | アブラナ科        | 種子   | アブラナ      | 水田・水辺・道端      | 1  |    |
|    | 20  | カタバミ属        | 種子   | カタバミ      | 道端・畑          | 20 |    |
|    | 21  | エノキグサ        | 種子   | トウダイグサ    | 道端・畑          | 7  |    |
|    | 22  | スマレ属         | 種子   | スマレ       | 道端・山野         | 6  |    |
|    | 23  | メロンの仲間       | 種子   | ウリ        | 栽培            | 13 |    |
|    | 24  | セリ科          | 果実   | セリ        | 湿地・山野         | 2  |    |
|    | 25  | トウバナ属        | 果実   | シソ        | 山野            | 1  |    |
|    | 26  | ホトケノザ        | 果実   | シソ        | 畑・道端          | 1  |    |
|    | 27  | シソ属          | 果実   | シソ        | 道端            | 1  |    |
|    | 28  | シロネ属         | 果実   | シソ        | 水辺            | 1  |    |
|    | 29  | ナス           | 種子   | ナス        | 栽培            | 9  |    |
|    | 30  | オオバコ         | 種子   | オオバコ      | 道端・山野         | 3  |    |
|    | 31  | タカサブロウ       | 果実   | キク        | 湿地・水田         | 12 |    |
|    | 32  | イネ科          | 穎    | イネ        | 道端・野原         | 6  |    |
|    | 33  | スズメノテッポウ     | 果実   | イネ        | 水田・畑          | 1  |    |
|    | 34  | スズメガヤ属       | 果実   | イネ        | 道端・空き地        | 2  |    |
|    | 35  | エノコログサ属      | 穎    | イネ        | 道端・荒地・野原      | 2  |    |
|    | 36  | オオムギ(炭化)     | 果実   | イネ        | 栽培            | 1  |    |
|    | 37  | イヌビエ属        | 穎    | イネ        | 湿地・溝辺・水田      | 10 |    |
|    | 38  | カヤツリグサ属(三稜形) | 果実   | カヤツリグサ    | 水田・湿地・道端      | 1  |    |
|    | 39  | カヤツリグサ属(扁平形) | 果実   | カヤツリグサ    | 水田・湿地・道端      | 16 |    |
|    | 40  | ホタルイ属        | 果実   | カヤツリグサ    | 水田・溝・湿地       | 3  |    |
|    | その他 | 41           | 昆虫   | 頭・上翅・胸腹・脚 |               |    | 多数 |
|    |     | 42           | ミジンコ | 耐久卵       |               |    | 9  |

※サンプリング量2200ml

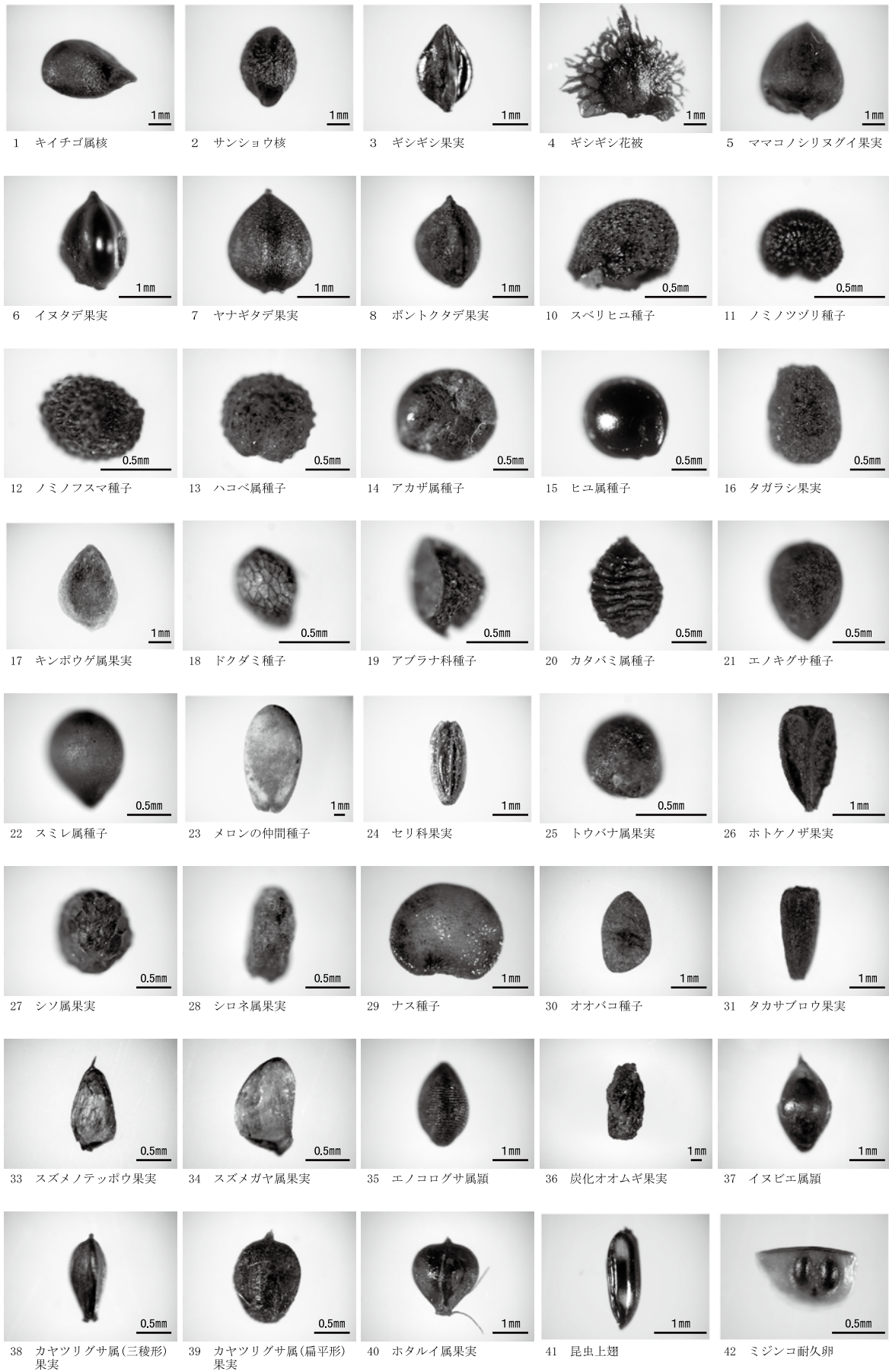


図19 溝3最下層出土種実等写真

## 5. まとめ

検出した主な遺構について述べる。

今回検出した最も時期の古い遺構は溝100である。この溝は平安時代前期に埋没したと考えられる。また、東西方向の柱穴列1は平安時代前期の柵である。調査地は奈良時代前期に創建されたとされる板橋廃寺の北に隣接しており、調査では後世の遺構に一定量の平安時代の遺物や平安時代中期の軒平瓦が含まれることから、溝100・柱穴列1は板橋廃寺に関連する遺構の可能性が有る。

中世の柱穴や土坑を検出したが、顕著な遺構は検出できなかった。

伏見城期の堀（溝3・88）を検出した。堀は水を湛えて、船が接岸できる係留施設があったと考えられることなどから、これらの堀は舟入と思われる。また現在、丹波橋が架かる外堀の水位は標高11.3m前後、東西堀（溝3）の底部標高が13.5m前後、南北堀（溝88）の底部標高が13.8m前後であり、かなり水位に差があることから、検出した堀がこれに繋がっていたとは考えにくい。しかし現在の外堀は、琵琶湖疏水を流すため改修されていることから、元来は堀に繋がっていた可能性は否定できない。さらに『豊公伏見城ノ圖』などの絵図では調査地の南側は、「淖」（ぬかるみ）が表記されており、これらとの関連性も考えられる。今後、周辺の発掘調査によって堀の性格や位置関係が明らかになるものと期待される。

一方、調査区西部で検出した伏見城期新旧2時期の道路遺構（路面と側溝）東側に沿って検出した南北方向の塀（布掘り柱穴列90）は、旧期には道路と屋敷地、舟入（溝88）などの施設を区画し、新期には再整備された道路と新たに掘削された舟入り（溝3）、屋敷地などを区画するために築かれたものであろう。

今回の調査で伏見城期の遺構を確認できたことは大きな成果である。当地は、伏見城期には武家屋敷地（桑山丹波守屋敷）であったと考えられるが、検出した遺構が屋敷全体の中でどのような性格のものであるのか、今後明らかにしていく必要がある。また、板橋廃寺に関連するとみられる遺構を検出できたことも大きな成果であった。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 2) 青山 均ほか『大谷中・高等学校校内 遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会 1984年 図版17・70-12と同文

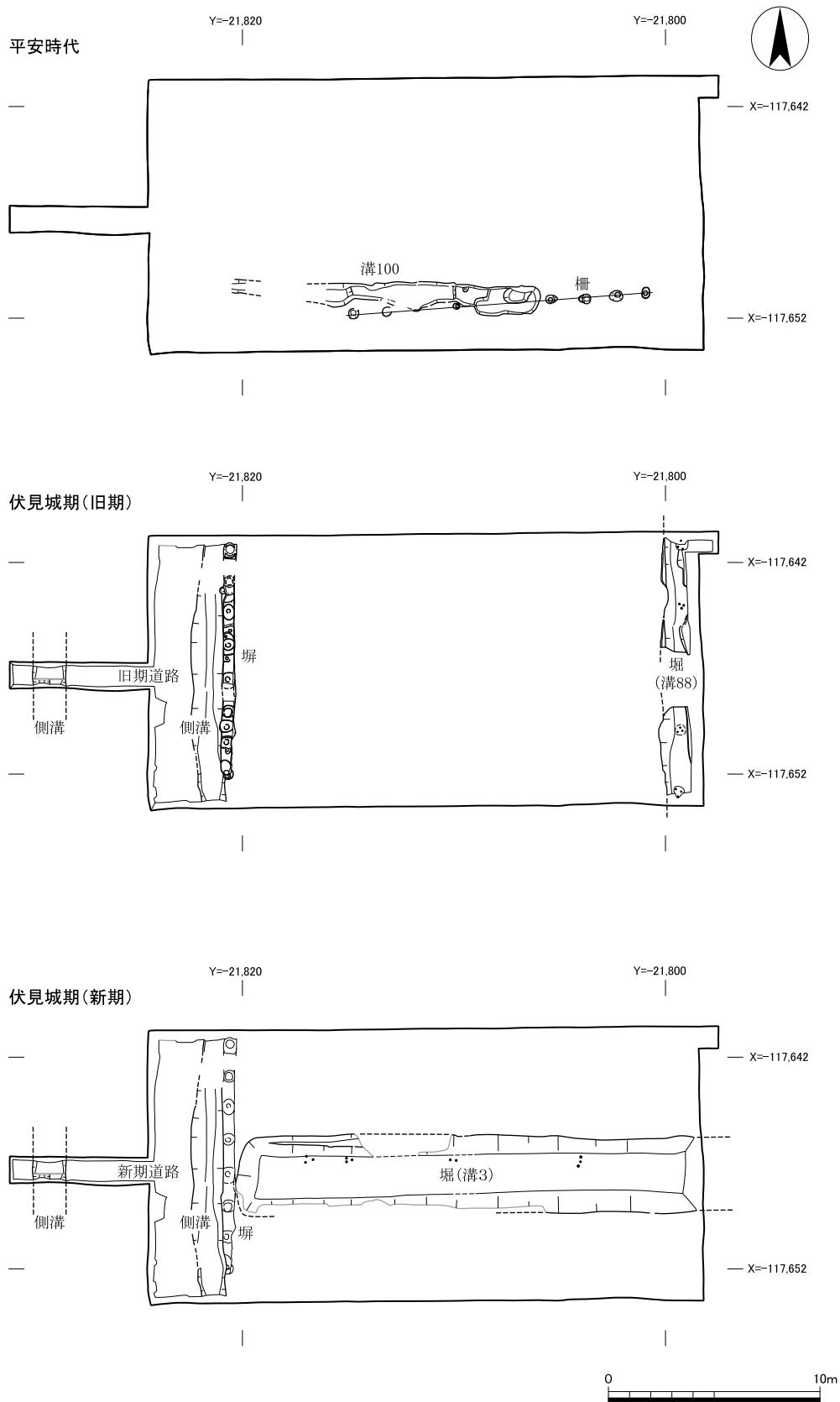


図20 遺構概念図 (1 : 300)

# 圖 版





1 第1面全景（西から）



2 溝2、路面152（北から）



3 溝3（西から）





1 溝3断面（西から）



2 溝88（北から）



3 布掘り柱穴列90（北から）





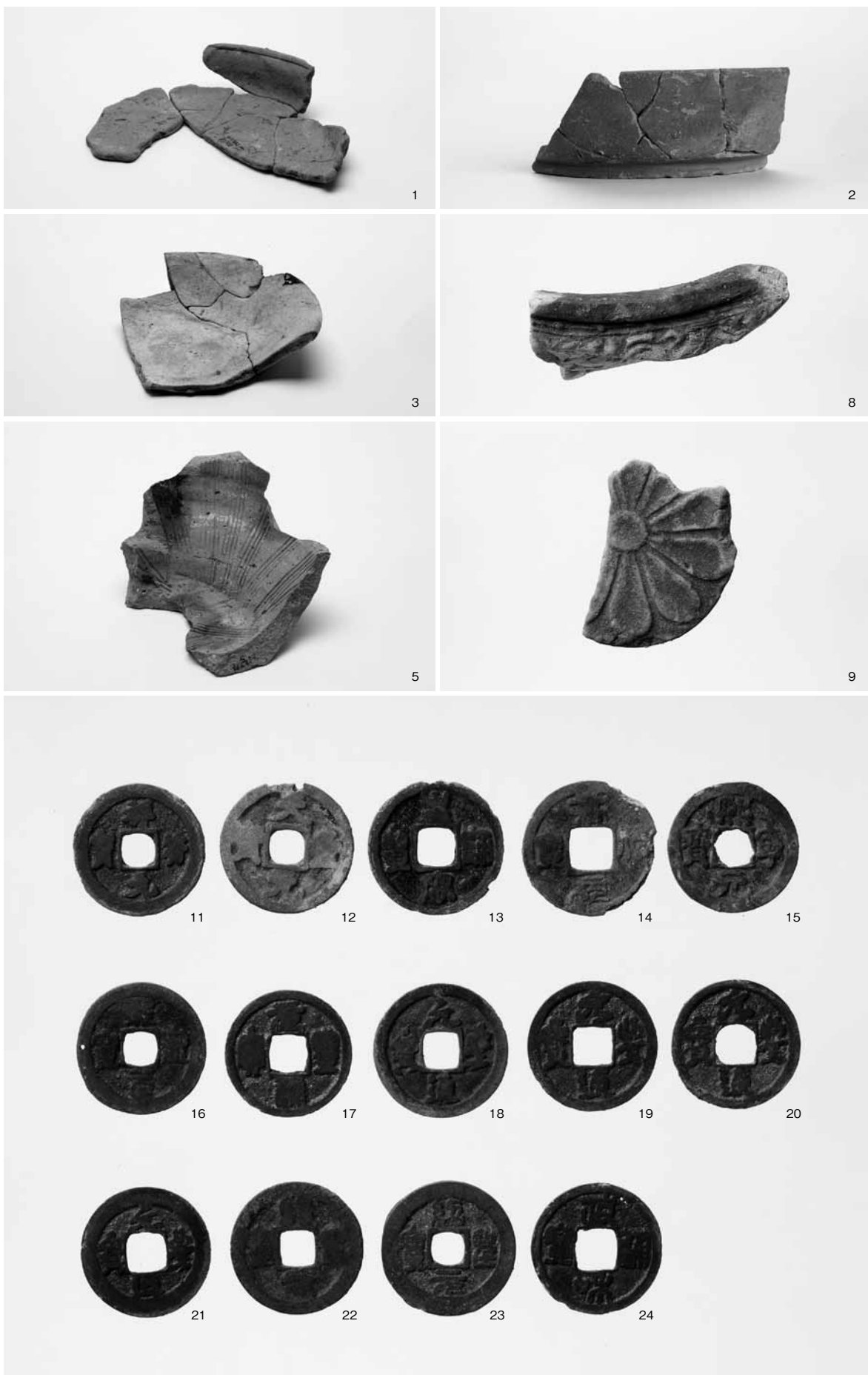
1 第2面全景（西から）



2 柱穴列1（東から）



3 溝100（西から）



出土遺物

# 報 告 書 抄 録

| ふりがな             | ふしみじょうあと   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
|------------------|--|-------------|--------|-------------------|--------------------|-----------------------------------|------|--------------|
| 書名               | 伏見城跡   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| シリーズ名            | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告  |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| シリーズ番号           | 2014-8   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| 編著者名             | 布川豊治・竜子正彦  |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| 編集機関             | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| 所在地              | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| 発行所              | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| 発行年月日            | 西暦2015年3月31日   |             |        |                   |                    |                                   |      |              |
| ふりがな<br>所収遺跡名    | ふりがな<br>所在地  | コード         |        | 北緯                | 東経                 | 調査期間                              | 調査面積 | 調査原因         |
|                  |  | 市町村         | 遺跡番号   |                   |                    |                                   |      |              |
| ふしみじょうあと<br>伏見城跡 | きょうとしふしみく<br>京都市伏見区<br>しもいたばしちょう<br>下板橋町630番、<br><br>630番1、630番3、<br><br>630番6、630番7、<br><br>630番8 | 26100       | 1172   | 34度<br>56分<br>21秒 | 135度<br>45分<br>40秒 | 2014年10月<br>15日～2014<br>年11月20日   | 348㎡ | 複合店舗<br>建設工事 |
| 所収遺跡名            | 種別   | 主な時代        | 主な遺構   | 主な遺物              |                    | 特記事項                              |      |              |
| 伏見城跡             | 平城跡  | 平安時代        | 溝、柵    | 土師器、須恵器、軒平瓦       |                    | 伏見城の時期に整地され、道路、堀などが作られた。堀は舟入であろう。 |      |              |
|                  |  | 桃山時代～江戸時代初期 | 堀、塀、道路 | 土師器、焼締陶器、瓦類       |                    |                                   |      |              |
|                  |  | 江戸時代前期以降    | 溝      | 土師器、染付磁器、施釉陶器、瓦類  |                    |                                   |      |              |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-8

## 伏見城跡

発行日 2015年3月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961